

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2013/8/1~2013/11/30) **資料 5-1**

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Eurosurveillance. 18(2013)20518	イタリアにおけるA型肝炎の報告。2013年1月以降、北イタリアでA型肝炎の報告数が増加している。1月から3月までに352例の感染が報告されており、これは昨年の同期間に比べて70%の増加である。患者の多くが共通して摂取していた冷凍ミックスベリーからA型肝炎ウイルスが検出され、感染源と考えられた。
2	A型肝炎	Transfusion. 53(2013)2103	A型肝炎ウイルス(HAV)の株間の熱感受性の違いに関する総説。HAVは株の違いにより、同じ液状加熱処理条件[60°C、10時間]においても不活化効果に違いがある。そのため、ウイルス・クリアランス試験のような安全性評価試験においては、臨床分離株、検査室で採用された株、関連したウイルス及びモデルウイルスの間の物理化学的な特性の違いに注意を払うことが推奨される。
3	B型肝炎	ProMED-mail 20130729.1852587	中国におけるB型肝炎ウイルス(HBV)に関する記事。中国の衛生当局によると、全世界のHBVキャリア3億5千万人のうち、約3分の1が中国人である。また、全世界のB型肝炎による年間の死亡者数70万人の約半数が中国人である。世界保健機関によると、新生児に対するHBVワクチンの接種を2005年に導入した結果、5歳未満のHBV感染率は10%から1%未満に減少した。
4	B型肝炎	Transfusion. 53(2013)1393-1404	日本国内におけるB型肝炎ウイルス(HBV)感染供血者由来の血液製剤の感染性に関する報告。血液スクリーニングで実施されるHBV NATは、国内における輸血後HBV感染(TT-HBV)の予防に貢献しているが、それでも年間4~13件のTT-HBVが発生している。今回、TT-HBVが疑われた献血の保管検体を個別NATにより解析したところ、HBc抗体低力価かつHBs抗体200IU/L未満である検体の1.94%がウイルス血症であり、またHBc抗体価とウイルス血症の頻度は相関していないことが明らかとなった。この結果を受け、血液製剤の製造事業者は、HBc抗体低力価かつHBs抗体低値の血液をすべて廃棄した。
5	B型肝炎	Transfusion. 53(2013)1405-1415	欧州におけるB型肝炎ウイルス(HBV)感染供血者由来の血液製剤の感染性に関する報告。HBV感染者のうち血中HBVが極めて少ないオカルトHBV感染者は、欧州において供血の1,000から50,000例に1例の割合で確認されている。今回、オカルトHBV感染供血者の過去の供血の受血者に対して調査を行った結果、オカルトHBV供血者由来の血液製剤によるHBV感染リスクは高いことが明らかとなった。疫学的状況に応じて、HBc抗体及びHBV NATスクリーニング等の安全対策を講じることが正当化されるだろう。
6	B型肝炎 C型肝炎 HIV感染	J Coll Physicians Surg Pak. 22(2012)610-611	パキスタンにおけるβサラセミア患者のC型肝炎ウイルス(HCV)等の感染状況に関する報告。患者160例を対象に調査を実施した結果、HCV抗体陽性は21例(13.1%)、B型肝炎表面抗原陽性は2例(1.25%)であり、HIV抗体陽性例はなかった。10歳以上のβサラセミア患者のHCV抗体陽性率は22%(49例中11例)であったが、10歳未満の患者では8.4%(111例中9例)であった。過去10-12年間の血液スクリーニングは血液媒介性疾患の感染リスクを低減していたと考えられた。
7	C型肝炎	HPS Weekly Report. May 1, 2013	英国におけるC型肝炎の報告。スコットランド保健当局は、2012年内に新たにC型肝炎抗体陽性と診断された症例が1,991例であることを公表した。2011年の症例数2,343例、2010年の症例数2,114例に比べて減少した。年齢層別では、30-39歳が最も多く738例(37%)、次いで40-49歳の509例(26%)であった。また、2002年から2012年末までに累積で33,595例がC型肝炎陽性と診断されており、362例(全症例の1%)が血液凝固因子の投与と関連していた。感染理由が「その他」と分類されたのは1,720例(全症例の5%)であり、輸血、性交渉、タトゥー等がリスク因子として考えられた。
8	C型肝炎	ProMED-mail 20130330.1611310	米国におけるC型肝炎の報告。オハイオ州ロス郡の保健当局は、2012年度の年次報告においてC型肝炎患者が172例にのぼることを報告した。2002年度の患者数23例から大幅に増加した。最近のC型肝炎患者の感染原因の多くは、汚染された注射針や薬物の使用と考えられた。
9	C型肝炎	ProMED-mail 20130607.1760734	米国におけるC型肝炎の報告。ニューハンプシャー州の病院におけるC型肝炎のアウトブレイクで33例目となる症例が確認された。州の保健当局によると、この症例は既に感染が確認されている症例との性的接触により感染したと考えられている。当該病院のアウトブレイクでは元従業員が感染源となり、本人の血液で汚染されたシリンジにより多数の患者が感染したとして、元従業員が起訴されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
10	C型肝炎	ProMED-mail 20130613.1769767	イタリアにおけるC型肝炎の報告。イタリアにおけるC型肝炎患者は欧州域内で最多であり、人口の3% (約160万例) が感染している。そのうち55%が遺伝子型1型であり、大多数の症例が1970及び1980年代に輸血又は汚染された注射針により感染したと考えられている。残りの20から30万例については性交渉などにより感染したと考えられた。
11	C型肝炎	Transfusion. 53(2013)1010-1018	C型肝炎ウイルス (HCV) の不活性化技術の評価に関する報告。HCV又はウシウイルス性下痢ウイルス (BVDV) を血漿及び血小板濃縮液に添加した後、メチレンブルー及び可視光線による光化学処理 (MB+光線)、あるいは短波長紫 (UVC) 照射による処理を行い、残存ウイルスの感染価を評価した。血漿中のHCVは、MB+光線処理により効果的に検出限界以下にまで不活性化され、血小板濃縮液中のHCVは、UVC照射により5 log以上のリダクションファクターで不活性化された。BVDVは、両不活性化技術に対する感受性がHCVよりも小さかった。MB+光線処理及びUVC照射は、輸血によるHCV感染のリスクを大幅に低減させる可能性がある。
12	E型肝炎	Berl Munch Tierarztl Wochenschr. 126(2013)230-235	ドイツにおける野生イノシシのE型肝炎ウイルス (HEV) 感染の報告。ザクセン=アンハルト州で採取された野生のイノシシの血液サンプル330検体について抗HEV抗体の有無を検査した結果、33%で陽性反応が検出された。また、HEV陽性のイノシシの分布地域は州内に不均一に広がっており、複数のクラスターの形成が認められた。
13	E型肝炎	第60回日本ウイルス学会学術集会 2012年11月13-15日、P2-040	日本国内のニホンサルにおけるE型肝炎ウイルス (HEV) 感染の報告。2000、2002及び2007年に大分県内で採取されたニホンサルの血清82検体について抗HEV抗体の有無を検討した結果、17検体 (20.7%) で抗HEV IgG抗体が検出された。2000、2002及び2007年に採取された検体の陽性率は、それぞれ0% (0/2)、22.2% (16/72) 及び12.5% (1/8) であった。いずれの検体からもIgM抗体は検出されず、高い抗体価を示した検体からもウイルス核酸は検出されなかった。野生のニホンサルへのHEV感染ルートを明らかにするため、野生イノシシのHEV感染状況を調べる必要がある。
14	E型肝炎	第60回日本ウイルス学会学術集会 2012年11月13-15日 P2-041	日本国内のブタ、イノシシ及びシカにおけるE型肝炎ウイルス (HEV) 感染の報告。野生のイノシシ142頭 (筋肉100検体、肝臓108検体、血液43検体) 及びシカ61頭、並びに肥育ブタ1,329頭 (廃棄肝臓183検体、血液1,146検体) を対象に、RT-PCR法を用いて検討を行った。その結果、肥育ブタ廃棄肝臓11検体 (6.0%) 及び肥育ブタ血液4検体 (0.09%) からHEV遺伝子が検出された。肥育ブタの血清中の抗HEV IgG抗体の平均保有率は71.9%であり、養豚場間で大きな差 (0~100%) が認められた。また、イノシシの筋肉2検体 (2%)、肝臓12検体 (11.1%)、血液4検体 (9.3%) からもHEV遺伝子が検出されたが、シカからはHEV遺伝子は検出されなかった。
15	E型肝炎	第61回日本輸血・細胞治療学会総会 2013年5月16日-18日 O-2-4	日本国内における血液製剤輸血後6か月を経過してE型肝炎を発症した症例の報告。患者は20歳代の女性であり、白血病の治療のため入院し、入院当日より輸血を受けていた。入院から約6ヶ月後肝機能障害を発現し、E型肝炎ウイルス (HEV) の検査を実施したところ陽性であった。患者に輸血された血液製剤についてHEV検査が行われた結果、FFP製剤の一つからHEV RNAが検出され、本症例は輸血用血液製剤によるHEV感染と特定された。
16	HIV感染	Am J Infect Control. 41(2013)471-472	ブラジルにおける針刺し事故によるHIV感染の報告。40歳代の准看護師は、AIDSを発症していた患者の血糖値測定の際に誤って親指を刺し、わずかな出血を伴う傷を負った。すぐに洗浄し、曝露から2時間以内にジドブジン、ロピナビル及びリトナビルによる曝露後予防措置を開始し、28日間継続した。しかし、受傷してから8ヶ月後にはHIV抗体陽性となった。原因患者のCD4数は低く (11/microl)、数週間で死亡したことから、高ウイルス量であった可能性があり、これが理由で曝露後予防措置が失敗したと考えられた。
17	HIV感染	HPS Weekly Report 47, Jun 19, 2013	欧州におけるHIV感染に関する報告。欧州疾病予防管理センターは、2012年までのHIV感染への対応を示した一連の報告書を公表した。これは、欧州及び中央アジア地域におけるHIV及びAIDSに対抗するためのパートナーシップに関するダブリン宣言に基づくものである。HIVの流行が始まって以来、欧州全域で約78万例のHIV感染が報告されている。また、最近のサーベイランスデータによると、欧州におけるHIV感染生存者数は増加している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
18	HIV感染	<a href="http://www.hpa.org.uk/hpr/archives/2013/nwes1413.htm#hvds12">http://www.hpa.org.uk/hpr/archives/2013/nwes1413.htm#hvds12</a>	英国におけるHIV感染に関する報告。2013年4月、英国保健当局は、2012年中に英国内で新たにHIVと診断された症例が5,920例(男性:4,210例、女性:1,710例)であると公表した。2005年には7,970例がHIVと診断されたが、それ以降、新規の診断数は減少し続けている。MSM(男性と性交渉を持つ男性)における新規HIV診断は2,480例(全体の52%)であり、過去10年間で着実に増加している。一方、ヘテロセクシャルにおける感染は減少し続け、2,760例(全体の44%)であった。
19	HIV感染	<a href="http://www.nih.gov/niiid/ja/aids-m/aids-iasrd/3294-kj3972.html">http://www.nih.gov/niiid/ja/aids-m/aids-iasrd/3294-kj3972.html</a>	中国におけるHIV-1感染に関する報告。中国におけるHIV-1新規感染者のうち、男性同性愛者(MSM)が占める割合は、0.3%(1985~2005年)から32.5%(2009年)へ急速に増大した。MSM間におけるHIV-1感染例の大部分は、クラスター1及びクラスター2と呼ばれる2種類のウイルスバリエーションによって構成されることが明らかとされている。日本国内のMSMにおけるHIV-1感染例の97-98%は欧米起源のサブタイプBであるが、ごく少数例、中国のMSMに特有のウイルスバリエーションと一致するものが確認されている。これは、中国のウイルスバリエーションが既に域外に拡大し始めている可能性を示している。
20	HIV感染	<a href="http://www.nih.gov/niiid/ja/aids-m/aids-iasrd/3295-kj3973.html">http://www.nih.gov/niiid/ja/aids-m/aids-iasrd/3295-kj3973.html</a>	日本国内におけるHIV感染に関する報告。平成24年10月1日から12月30日までに報告された新規HIV感染者数は257例であり、男性246例及び女性11例であった。また、新規AIDS患者の報告数は114例であり、男性107例及び女性7例であった。前回の集計に比べ、新規HIV感染の報告数は減少し、新規AIDS患者報告数はほぼ横ばいであった。新規HIV感染例のうち、同性間の性的接触によるものは184例(72%)であり、年齢別では20~30歳代が多かった。新規AIDS患者のうち、同性間の性的接触によるものは62例(54%)であり、年齢別では40歳以上が約61%であった。
21	インフルエンザ	Taiwan Centers for Disease Control Press Release, Jun 21, 2013	台湾におけるインフルエンザA(H6N1)型(以下、H6N1)感染の報告。2013年6月21日、台湾疾病管理センター(以下、Taiwan CDC)は、H6N1の初めてのヒト感染例の報告を受けたことを公表した。感染者は20歳の女性であり、軽度の肺炎症状を呈している。Taiwan CDCの検査機関による全ゲノム解析の結果、新種の鳥起源のウイルスであるH6N1と特定された。感染者と接触した36名に対して追跡調査が実施され、うち4例でインフルエンザ様の症状が確認されたが、感染は確認されなかった。Taiwan CDCは、インフルエンザへの監視を強化するとともに、インフルエンザ様の症状が現れた場合にはすぐに受診することを市民に呼びかけた。
22	インフルエンザ	ProMED-mail 20130621.1785829	台湾におけるインフルエンザA(H6N1)型(以下、H6N1)感染の報告。2013年6月21日、台湾疾病管理センター(以下、Taiwan CDC)は、H6N1の初めてのヒト感染例の報告を受けたことを公表した。感染者は20歳の女性であり、軽度の肺炎症状を呈している。Taiwan CDCの検査機関による全ゲノム解析の結果、新種の鳥起源のウイルスであるH6N1と特定された。感染者と接触した36名に対して追跡調査が実施され、うち4例でインフルエンザ様の症状が確認されたが、感染は確認されなかった。Taiwan CDCは、インフルエンザへの監視を強化するとともに、インフルエンザ様の症状が現れた場合にはすぐに受診することを市民に呼びかけた。
23	インフルエンザ	共同通信(2013年6月21日配信)	台湾におけるインフルエンザA(H6N1)型(以下、H6N1)感染の報告。2013年6月21日、台湾衛生当局は、台湾中部の20歳の女性1例がH6N1に感染したことを公表した。患者は5月5日に発症後、軽い肺炎を起こして入院したが回復し、既に退院している。鳥類におけるH6N1感染は確認されているが、H6N1のヒトへの感染はこれまで報告がなかった。
24	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2012-2013 Influenza season Week 35 ending August 31, 2013	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2013年8月31日、米国疾病予防管理センターは、ミンガン州において1例のH3N2v感染を確認したことを公表した。2013年夏季にH3N2v感染が確認された症例は計18例であり、すべての症例において発症前にブタとの接触が認められた。現時点で継続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。
25	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v-firstcases-2013.htm">http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v-firstcases-2013.htm</a>	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2013年6月、インディアナ州において4例のH3N2v感染が確認された。4例の患者はいずれも州内の農業フェアに参加しており、ブタとの直接接触の機会があった。米国疾病予防管理センター(CDC)による解析の結果、今回検出されたH3N2vと昨年流行したH3N2vの遺伝子配列は99%一致した。CDCは、合併症を引き起こすリスクの高い者は、今年度も引き続きブタ小屋やブタとの接触を避けるよう推奨した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
26	インフルエンザ	<a href="http://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchive/s2012-2013/weekly31.html">http://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchive/s2012-2013/weekly31.html</a>	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2013年8月、米国疾病予防管理センターは、インディアナ州においてH3N2v感染が新たに1例確認されたことを公表した。2013年に入り、米国内におけるH3N2v感染は計16例(イリノイ州1例、インディアナ州14例、オハイオ州1例)となった。いずれの症例も発症前にブタとの接触が認められており、現時点で継続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。
27	インフルエンザ	ProMED-mail 20130914.1944711	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)感染の報告。アーカンソー州の保健当局は、2例のH1N1v感染を確認したことを公表した。2例とも発症前にブタと接触していたことが確認されている。臨床症状は季節性インフルエンザと類似しており、2例とも既に回復した。
28	インフルエンザ	Virus Genes. 47(2013)75-85	タイにおけるブタのパンデミックインフルエンザA(H1N1)型(以下、pH1N1)感染の報告。2010年6月から2012年5月までに調査されたブタ1,335頭のうち、23頭(1.75%)からインフルエンザウイルスが検出された。pH1N1(7頭)、pH1N1の遺伝子再集合体(1頭)、北米のブタで流行するH3N2とpH1N1の遺伝子再集合体(9頭)などが検出された。
29	インフルエンザ	MMWR. 62(2013)473-474	米国におけるインフルエンザに関する報告。2012年9月30日から2013年5月18日までの間の米国内のインフルエンザの発生状況について概要が公表された。この期間に311,333件の検体が検査され、73,130件(23%)が陽性であった。陽性検体のうち、51,675件(71%)がインフルエンザA型であり、21,455件(29%)がインフルエンザB型であった。A型のうちサブタイプが特定された34,922件の内訳は、A(H3N2)型が33,423件(96%)、pH1N1型が1,497件(4%)及びA(H3N2)変異型が2件であった。
30	インフルエンザ	第60回日本ウイルス学会学術集会 2012年11月13-15日 P1-007	国内の豚インフルエンザウイルスに関する遺伝子解析の報告。国内の養豚場及び動物検疫所のブタより分離されたウイルス11株について相同性解析及び系統解析を行った。その結果、11株のうち7株が2009年に流行したインフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルス(以下、pdmV)であった。また、2株がH1N2亜型であり、これまで主流であったH1N2亜型の表面抗原とpdmV由来の内部遺伝子から構成されたリアソータントであった。残る2株はH3N2亜型ウイルスであり、北米を中心に循環しているトリプルリアソータントであった。
31	鳥インフルエンザ	Eurosurveillance 18(2013)7-21	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する報告。2013年4月10日までに、中国では33名がH7N9に感染し、9名が死亡した。分離されたH7N9の遺伝子配列を解析した結果、赤血球凝集素(HA)遺伝子及びノイラミニダーゼ遺伝子はともにユーラシア大陸の鳥に由来するものと考えられた。その他、H7N9は鳥インフルエンザA(H9N2)型と同一の遺伝子を有することが確認された。HA遺伝子及びある種のRNAポリメラーゼ遺伝子に認められた複数の変異によって、ヒト細胞受容体への親和性及び哺乳動物細胞内での効率的な複製が促進された可能性がある。
32	鳥インフルエンザ	N Engl J Med. (in press) April 24, 2013	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する報告。2013年4月17日までに中国当局へ報告されたH7N9感染確定症例82例について実地調査を行った。その結果、患者の年齢中央値は63歳(2-89歳)であり、73%が男性であり、84%が都市部の生活者であった。17例が死亡し、60例が重篤な状態となった。発症から死亡までの期間(中央値)は11日間であった。患者と接触した1689例のうち1251例について追跡調査を実施したが、H7N9の感染確定例はなかった。2つの家族クラスターにおいて、発端症例以外では家禽や動物との接触・曝露がなかったことから、ヒトからヒトへ感染した可能性が否定できない。
33	鳥インフルエンザ	N Engl J Med. 368(2013)2277-2285	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する報告。調査対象とされた111例のH7N9感染例のうち、76.6%がICUで処置を受け、27.0%が死亡した。全症例の42.3%は65歳以上であり、61.3%は基礎疾患を有していた。臨床症状については97.3%が肺炎の症状を示し、画像診断では共通してすりガラス様の陰影を認めた。全症例の88.3%でリンパ球減少症、73.0%で血小板減少症が認められた。多変量解析の結果、急性呼吸促迫窮迫症候群の合併がリスクファクターとされた。
34	鳥インフルエンザ	N Engl J Med. 368(2013)2348-2349	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する総説。10年前にSARSコロナウイルス感染が流行したときと比較して、H7N9感染に対する中国政府の対応は明らかに改善した。情報の迅速な公開、病原体の検出・特定能力の向上、各病院からの報告体制の確立、世界保健機関を含む国際機関との情報交換などの点で改善が認められた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
35	鳥インフルエンザ	Nature. 25(2013)500-503	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)の生物学的特徴に関する報告。H7N9の受容体結合能について解析した結果、H7N9はヒト型及びトリ型受容体の双方に対する結合能を有することが明らかとなった。また、H7N9はヒトの気管及び肺の細胞において効率的に増殖することも確認された。これらの特徴から、H7N9のヒトへの感染性は高いと考えられ、パンデミックの可能性を考慮して、集中的な監視が必要であると考えられた。
36	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130806.1867206	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)のヒト-ヒト感染に関する報告。H7N9がヒトからヒトへ感染したと疑われる事例が報告された。発端患者は60歳の男性で、家禽市場を訪れた5又は6日後に発症し、多臓器不全により死亡した。男性の娘である32歳の女性は、父親と最後に接触した6日後に発症して入院し、多臓器不全により死亡した。女性に家禽との接触歴はなかったが、父親が集中治療室に運ばれる以前、ベッド脇で父親を看病していた。両患者から分離された株はほぼ同一で、父親から娘に伝播したことが示唆された。一方で、持続的なヒト-ヒト感染は認められていない。
37	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20130813.1878600	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)の感染源に関する報告。2013年8月9日に公表された学術誌によると、H7N9の感染源は家禽農場である可能性が高い。浙江省の3都市で1,129名を対象に実施された血液検査により、家禽農場の従業者において無症候感染者及び軽度の感染者が見つかった。家禽農場の従業者396名を対象に調査した結果、6.3%がH7N9に対する抗体を保有していた。一方、他の健康人ではH7N9に対する抗体は認められなかった。なお、10年以上過去に実施された検査でも、家禽農場の従業者においてH7サブタイプに対する抗体陽性が認められていた。今回の結果を踏まえ、H7N9又は近縁のウイルスが家禽農場及び市場で循環しており、感染した家禽が感染源であると考えられた。
38	鳥インフルエンザ	The Lancet. 382(2013)129-137	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)及びA(H5N1)型(以下、H5N1)に関する報告。2013年5月24日までに中国当局へ報告されたH7N9感染例(130例)とH5N1感染例(43例)の疫学的特徴を比較した。その結果、症例の平均年齢はH7N9で62歳、H5N1で26歳であり、男性の割合は都市部において両ウイルスとも71%、農村部ではH7N9で62%、H5N1で33%であった。家禽への接触はH7N9では75%、H5N1では71%の症例で認められた。平均潜伏期間はH7N9で3.1日、H5N1で3.3日であった。入院時の死亡リスクはH7N9で36%、H5N1で70%であった。
39	鳥インフルエンザ	The Lancet. 382(2013)138-145	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)に関する報告。2013年5月28日までに中国当局へ報告された、H7N9感染による入院患者123例を対象として臨床的重症度の評価を行った。死亡が37例(30%)、回復が69例(56%)及び現在入院中が17例であった。これらのデータより、入院患者の死亡リスクは36%(95%信頼区間:26-45)であると推定された。
40	鳥インフルエンザ	WHO/GAR Aug. 11, 2013	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年8月11日、中国当局は世界保健機関(WHO)に対して、7月20日以降ではじめてとなるH7N9感染例を報告した。症例は広東省の51歳の女性であり、7月23日に具合が悪くなり、8月3日に入院し、8月11日時点で危篤状態である。8月9日、検査によりH7N9感染が確定した。8月11日までに中国国内では44例の死亡を含む、135例の確定例がWHOへ報告された。
41	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_h7n9/09_ReportWebH7N9Number.pdf">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_h7n9/09_ReportWebH7N9Number.pdf</a>	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する報告。世界保健機関によると、2013年8月12日までに135例のH7N9感染が報告された。地域別では、浙江省46例、上海34例、江蘇省27例、福建省5例、江西省5例、安徽省4例、河南省4例、湖南省3例、山東省2例、北京市2例、河北省1例、広東省1例及び台湾1例であった。また、H7N9の症状が発現した月別の例数は、2013年2月:2例、3月:30例、4月:88例、5月:3例、6月:0例、7月:2例、不明:10例であった。
42	鳥インフルエンザ	外務省 海外安全ホームページ(2013年4月3日掲載)	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する報告。外務省は、上海市及び安徽省で3例のH7N9感染が確認されたとの中国衛生部及び上海衛生部の発表(2013年3月31日付)を引用し、また、新たに4例のH7N9感染が確認されたとの江蘇省保健当局の発表(2013年4月2日付)を引用した上で、中国・上海及びその周辺地域に滞在又は渡航予定の者に対し、鳥インフルエンザへの感染を予防するための措置(例えば、生きた鳥を扱う市場や家禽飼育場への立入を避ける、死んだ鳥や放し飼いの家禽との接触を避ける等)を講ずるよう注意喚起した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
43	鳥インフルエンザ	平成25年4月3日付厚生労働省健康局結核感染症課長通知	2013年4月3日、厚生労働省健康局結核感染症課は、中国で発生した鳥インフルエンザA(H7N9)型感染に関連して、世界保健機関が作成した質疑応答集の邦訳を公表し、感染の疑われる患者を診察した場合の情報提供について協力依頼を行った。
44	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/EN_GIP_20120705CumulativeNumberH5N1cases_2.pdf">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/EN_GIP_20120705CumulativeNumberH5N1cases_2.pdf</a>	各国における鳥インフルエンザA(H5N1)型(以下、H5N1)感染に関する報告。2013年7月までに世界保健機関へ報告されたH5N1の確定症例は、全世界で23例(うち死亡17例)であった。国別では、カンボジアで13例(うち死亡9例)、中国で2例(うち死亡2例)、エジプトで4例(うち死亡3例)、インドネシアで1例(うち死亡1例)、バングラディッシュで1例(うち死亡1例)及びベトナムで2例(うち死亡1例)であった。
45	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_03July13.pdf">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_03July13.pdf</a>	各国における鳥インフルエンザ感染に関する報告。2013年7月4日の世界保健機関の報告によると、前回(2013年6月4日)以降、新たに3例の鳥インフルエンザA(H5N1)型の感染が報告されている。うち2例はカンボジアから、1例はインドネシアからの報告であり、3例中2例において家禽との接触が確認された。また、前回報告以降、中国から新たに1例の鳥インフルエンザA(H7N9)型感染が報告されている。今回の流行では133例の感染が報告され、うち43例が死亡、3例が現在も入院している。一方、台湾からは鳥インフルエンザA(H6N1)型の感染が1例報告されている。この患者に海外渡航歴はなく、発症前の家禽との接触も認められなかった。
46	鳥インフルエンザ	<a href="http://www.documents.hps.scot.nhs.uk/respiratory/seasonal-influenza/flu-update/2013-05-23.pdf">http://www.documents.hps.scot.nhs.uk/respiratory/seasonal-influenza/flu-update/2013-05-23.pdf</a>	英国等におけるインフルエンザ感染に関する報告。2013年5月23日、スコットランド健康保護局は、前週のインフルエンザの発生状況は先々週よりもわずかに少なく、季節性の流行の閾値を超えていないことを公表した。また、海外の状況として、インフルエンザA(H7N9)感染症例が中国で131例、台湾で1例確認され、中国の症例のうち36例が死亡したことを明らかにした。その上で、H7N9が欧州へ拡大する可能性は小さいと評価した。
47	ウエストナイルウイルス感染	<a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/wnv-wnv/nsr-rns_2013/w34/pdf/w34-eng.pdf">http://www.phac-aspc.gc.ca/wnv-wnv/nsr-rns_2013/w34/pdf/w34-eng.pdf</a>	カナダにおけるウエストナイルウイルス(WNV)感染の報告。カナダ公衆衛生当局は、第34週にヒトのWNV感染症例5例を確認したことを公表した。2013年は第34週までに16例のWNV感染が確認されている。また、ウイルス血症が推定される輸血ドナー1例が報告された。
48	ウエストナイルウイルス感染	MMWR. 62(2013)513-517	米国における2012年のウエストナイルウイルス(WNV)及び他のアルボウイルス感染の発生状況に関する報告。米国疾病管理予防センターによると、米国1,020郡から5,780例のアルボウイルス感染(デング熱を除く。)が報告され、そのうちWNV感染は5,674症例(98%)を占め、2003年以降最大の報告数となった。WNV感染例のうち、5,199例(92%)が5-7月に発症し、2,873例(51%)が神経侵襲性疾患の症状を呈し、3,491(62%)が入院し、286例(5%)が死亡した。
49	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20130501.1684736	トルコにおけるコンゴ・クリミア出血熱の報告。2013年4月27日、Tokat県の男性がコンゴ・クリミア出血熱により死亡した。この男性は、4月17日に野外で動物の世話をしていた際にダニに噛まれていた。トルコ保健当局によると、2002年から2012年までのコンゴ・クリミア出血熱による死者は174例であった。
50	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20130620.1784053	パキスタンにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。2013年6月14日、世界保健機関はパキスタンから16例のCCHF疑い例の報告を受けたことを明らかにした。このうち6例は既に死亡している。2012年中、パキスタンから61例のCCHF疑い例が報告され、うち17例が死亡した。
51	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20130707.1811645	ロシアにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。ロシア保健当局は、VolgogradにおいてCCHFによる死亡例が確認されたことを明らかにした。Southern Federal Regionでは2013年6月24日までに、55例のCCHF感染例が確認されている。
52	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20130730.1854571	インドにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。2013年6月23日から7月10日までの間に、グジャラート州において6例のCCHFが確認された。すべての症例がウシの放牧地域で生活していた。また、複数のウシ、ヤギ及びヒツジにおいてCCHF陽性であることが確認された。
53	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20130817.1886236	インドにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。グジャラート州Ahmedabadにおいて、CCHFによる死亡が疑われる症例3例が報告された。3例とも男性であり、症例の家族2例が現在も入院している。グジャラート州でCCHFが初めて確認されたのは2011年1月であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
54	狂犬病	ProMED-mail 20130706.1810755	インドにおける狂犬病の報告。マディヤ・プラデーシュ州において、狂犬病のイヌに咬まれた6歳男児が3日後に狂犬病を発症し、死亡した。狂犬病を発症した後、男児は5人の家族を噛んだ。男児に噛まれた後、5例全員が狂犬病予防ワクチンを接種したが、うち1例が狂犬病の兆候を示している。
55	狂犬病	ProMED-mail 20130729.1851180	米国における狂犬病の報告。2013年7月25日、ロードアイランド州の保健当局は、ウシが住民に咬みつく事件が発生したことを公表した。当該ウシは隔離された後に死亡したが、地元の担当者が州へ報告したのは3日後であったため、狂犬病の検査が困難なほど既に腐敗が進んでいた。当該ウシは狂犬病に罹患していた可能性があるため、ウシと接触した者は保健当局へ連絡するよう要請された。
56	風疹	<a href="http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6223a1.htm?s_cid=mm6223a1_w">http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6223a1.htm?s_cid=mm6223a1_w</a>	日本国内における風疹の発生状況に関する報告。2013年6月14日、米国疾病予防管理センターは、日本における風疹の発生状況について報告した。日本では、2013年1月1日から5月1日までに5,442例の風疹感染が報告され、うち3,936例が確定例であった。全体の77%が成人男性であり、60%以上が関東地域から報告された。直近数週間、報告数の増加は大阪、兵庫、愛知、福岡及び鹿児島へ拡大している。また、2012年10月から2013年5月1日までに先天性風疹症候群の乳児10例が報告された。なお、2008年から2011年までに報告された先天性風疹症候群の乳児は3例であった。
57	デング熱	ProMED-mail 20130415.1645892	各国におけるデング熱の報告。カンボジアでは2013年3月までに1,500例のデング熱が報告されており、これは昨年同時期の報告数(1,365例)より10%多い。インドのタミル・ナードゥ州ではデング熱の報告が増加しており、3月24日の時点で4,634例が報告された。特に影響を受けている地域はCoimbatoreであり299例が報告された。アンゴラの保健当局は4月1日、6例のデング熱症例を確認したことを公表した。
58	デング熱	ProMED-mail 20130701.1800463	東南アジアにおけるデング熱の報告。タイ国営放送によると、バンコクで40,000例以上が、タイ全土で最大150,000例がデング熱に感染し、タイ全土で50例が死亡した。ラオスでは11,000例以上がデング熱に感染し、44例が死亡した。また、ミャンマーの保健当局は6,448例がデング熱に感染し、13例が死亡したことを明らかにした。ミャンマーにおける感染者数は、2013年6月の時点で2012年中の感染者数(6,033例)を超えた。
59	デング熱	ProMED-mail 20130715.1824867	各国におけるデング熱の報告(2013年7月15日)。インドでは5例のデング熱による死亡が確認された。パキスタンでは432例がデング熱に感染した。シンガポールでは12,308例が感染し、4例が死亡した。ラオスでは20,367例が感染し、64例が死亡した。タイでは59,318例が感染し、68例が死亡した。ベトナムでは14,000例以上が感染し、10例が死亡した。
60	デング熱	ProMED-mail 20130729.1851823	各国におけるデング熱の報告(2013年7月29日)。インドでは2,849例が感染し、9例が死亡した。パキスタンでは524例が感染し、6例が死亡した。フィリピンでは4,042例が感染し、10例が死亡した。中国では85例が感染した。タイでは73,000例が感染し、73例が死亡した。ラオスでは27,000例以上が感染し、74例が死亡した。
61	デング熱	Science Insider. Oct. 21, 2013	マレーシアで発見された新規のデングウイルスに関する報告。2007年にサラワク州で発生したデング熱の集団感染の際に採取された検体から、既知の血清型とは異なる型のデングウイルスが検出された。新規ウイルスの遺伝子配列を確認した結果、他の血清型のウイルスとは系統発生的に異なることが確認された。新規ウイルスが検出されたのは、上記の集団感染においてのみである。
62	灰白髄炎	<a href="http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6217a4.htm?s_cid=mm6217a4_w">http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6217a4.htm?s_cid=mm6217a4_w</a>	各国における野生型ポリオ(WPV)感染の報告。世界保健機関の統計によると、全世界から報告されたWPV症例数は2011年の650例から2012年の223例へ約66%減少した。WPVの循環が継続するアフガニスタン、パキスタン及びナイジェリアにおける2012年の症例数は、それぞれ37例(前年より53%減)、58例(前年より71%減)及び122例(前年より97%増)であった。
63	灰白髄炎	ProMED-mail 20130817.1884992	各国におけるポリオの発生状況に関する報告。ポリオ撲滅のためのグローバルイニシアティブは、国別の野生型ポリオ(WPV)症例数などを公表した。2012年8月から2013年7月までに、パキスタンからは計24例、アフガニスタンからは計4例のWPV感染が報告された。パキスタンでは、WPVが流行する地区と隣接する地域において予防接種キャンペーンが強化された。
64	口蹄疫	OIE Apr. 16, 2013	中国におけるウシ、ヒツジ及びヤギの口蹄疫の報告。2013年4月8日、新疆ウイグル自治区で口蹄疫が発生した。ウシ186頭、並びにヒツジ又はヤギ59頭が感染疑い例となり、そのすべてが処分された。血清型はA型であり、感染源は不明又は結論に達していない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
65	口蹄疫	OIE Jun 10, 2013	ロシアにおけるウシの口蹄疫の報告。カラチャイ・チェルケス共和国 Gamukha地区の村において、ウシの口蹄疫(血清型A型)が発生した。感染疑い例は200頭、感染確定例は60頭であった。感染源は不明もしくは結論に達していない。
66	口蹄疫	OIE May 10, 2013	中国におけるウシ、ヒツジ及びブタの口蹄疫の報告。2013年5月10日、チベット自治区において口蹄疫の発生が確認された。ウシ19頭の感染が確認され、血清型はA型であった。感染疑い例はウシ47頭、ヒツジ48頭及びブタ6頭であり、すべての感染疑い例が処分された。感染源は不明又は結論に達していない。
67	口蹄疫	OIE May 13, 2013	カザフスタンにおけるウシ、ヒツジ及びヤギの口蹄疫の報告。2013年5月11日、東カザフスタン州の農場において口蹄疫が発生した。ウシ40頭で感染が確定し、そのすべてが処分された。この他に、ウシ900頭、並びにヒツジ又はヤギ3,156頭が感染疑い例である。血清型は特定されておらず、感染源は不明又は結論に達していない。
68	口蹄疫	OIE May 16, 2013	台湾におけるブタの口蹄疫の報告。2013年5月16日、金門県 Jinhu Township においてブタの口蹄疫(血清型O型)が発生した。感染疑い例は1,094頭、確定例は6頭であった。感染源は不明又は結論に到達していない。
69	口蹄疫	ProMED-mail 20130404.1622342	ロシアにおけるウシ及びブタの口蹄疫の報告。Priangursky地区の農場において、ウシ270頭及びブタ8頭が口蹄疫に特徴的な臨床徴候を示していることが発見された。検査の結果、血清型A型と特定された。血清型A型の口蹄疫は、ロシア国内でははじめての報告である。
70	口蹄疫	ProMED-mail 20130822.1895260	ロシアにおけるウシ、ヒツジ及びヤギの口蹄疫の報告。深刻な洪水に見舞われたアムール州 Tambov 地域及び Blagobeshensky 地域の村において、ウシ、ヒツジ及びヤギの口蹄疫が発生した。ロシア獣医当局によると、洪水により、感染拡大を防ぐための措置を講ずることが困難となっている。
71	ロタウイルス感染	Emerg Infect Dis. 19(2013)1324-1327	オーストラリアにおけるロタウイルスのヒト感染株同定の報告。北部準州 (northern territory) の急性胃腸炎患者(小児5例、成人1例)において、ロタウイルス株血清型G10P[14]が同定された。遺伝子配列の解析により、偶蹄目様のG10P[14]-12-R2-C2-M2-A11-N2-T6-E2-H3というゲノム構成が示された。この知見は、偶蹄目からヒトへ感染した可能性を示唆している。
72	パルボウイルス感染	Korean J Lab Med. 30(2010)58-64	パルボウイルスB19 (B19V) のDNAスクリーニング検査の必要性に関する報告。韓国において、2008年4月から7月までに血漿交換ドナーとなった供血者10,032例を対象に調査を実施した。その結果、B19V DNAが陽性であったのは0.1%(10/10,032)であり、B19V DNA陽性ドナー10例のうち9例が抗B19V抗体を有していた。さらに、無作為に抽出されたドナー928例について詳細に検討したところ、抗B19V抗体陽性率は60.1%(558/928)であった。韓国の献血者におけるB19V DNA陽性率は高くはなく、多くは抗B19V抗体を有していたことから、B19Vスクリーニング検査の実施は必ずしも必要とは考えられなかった。
73	パルボウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA. 110(2013)10264-10269	中国の非A-E型肝炎患者から分離されたパルボウイルス様の新規ウイルスに関する報告。1999年から2007年までに重慶で収集された肝炎患者(A、B、C、D及びE型のいずれでもない)の血清標本92検体について解析した。その結果、コウモリのサーコウイルス及びブタのパルボウイルスに類似した新規ウイルス(NIH-CQV)が分離された。PCR法によると、患者の70%(63/90例)からNIH-CQV遺伝子が検出されたが、健常人の検体からは検出されなかった。免疫ブロット法によると、患者では84%がIgG陽性、31%がIgM陽性であったが、健常人では78%がIgG陽性、IgMは全て陰性であった。NIH-CQVの病因学上の役割についてはさらに研究が必要であるが、非A-E型肝炎患者集団でパルボ様ウイルスの保有率が高いことが示された。
74	パルボウイルス感染	ProMED-mail 20130602.1750302	中国の非A-E型肝炎患者から分離されたパルボウイルス様の新規ウイルスに関する報告。1999年から2007年までに重慶で収集された肝炎患者(A、B、C、D及びE型のいずれでもない)の血清標本92検体について解析した。その結果、コウモリのサーコウイルス及びブタのパルボウイルスに類似した新規ウイルス(NIH-CQV)が分離された。PCR法によると、患者の70%(63/90例)からNIH-CQV遺伝子が検出されたが、健常人の検体からは検出されなかった。免疫ブロット法によると、患者では84%がIgG陽性、31%がIgM陽性であったが、健常人では78%がIgG陽性、IgMは全て陰性であった。NIH-CQVの病因学上の役割についてはさらに研究が必要であるが、非A-E型肝炎患者集団でパルボ様ウイルスの保有率が高いことが示された。



ID	感染症 (PT)	出典	概要
75	ウイルス感染	CDC/MMWR 62(2013)480-483	中東における新規コロナウイルス(MERS-CoV)に関する報告。2013年7月14日、米国疾病予防管理センターは、WHOその他の関連機関との協力によりMERS-CoVのリスクの把握に努めていることを明らかにし、MERS-CoV感染例の報告が続いていることからアラビア半島における感染リスクは継続中であるとの認識を示した。最近のデータによると、軽度の呼吸器症状はMERS-CoVの臨床症状の一つであり、発症初期には呼吸器症状を伴わない場合があると考えられている。また、潜伏期間が以前に想定されていた1-9日間よりも長い、9-12日の発症例も報告されている。
76	ウイルス感染	Lancet Infect Dis. (online publication) Aug. 09, 2013	中東で流行する新規コロナウイルス(MERS-CoV)の宿主動物に関する報告。MERS-CoV感染者において、発症前にヒトコブラクダ又はヤギとの接触歴を有する事例が報告されている。今回、中東(オマーン)及び他所(スペイン、オランダ、チリ)の動物から血清を入手し、特異的抗体の有無を検査した。その結果、オマーンのラクダの100%(50/50)及びスペインのラクダの14%(15/105)において、特異的抗体が検出された。MERS-CoV又は関連するウイルスは、ラクダ集団内で循環していることが示唆された。
77	ウイルス感染	ProMED-mail 20130518.1721873	中東で流行する新規コロナウイルス(MERS-CoV)感染に関する報告。2013年5月18日の世界保健機関による発表によると、2012年4月以降の累計でMERS-CoV感染確定例は計40例であり、うち20例が死亡した。中東(ヨルダン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦及びカタール)並びに欧州(フランス、ドイツ及び英国)において患者が確認された。また、ヒトからヒトへ感染した事例が確認されている。このウイルスの感染経路は不明であるが、動物からヒトへ感染すると考えられている。
78	ウイルス感染	<a href="http://www.phac-aspc.gc.ca/erire/coronavirus/risk_assessment-evaluation_risque-eng.php">http://www.phac-aspc.gc.ca/erire/coronavirus/risk_assessment-evaluation_risque-eng.php</a>	中東における新型コロナウイルス(MERS-CoV)感染に関する報告。2013年10月9日、カナダ保健当局は、カナダ国内におけるMERS-CoV感染のリスクは低いとする評価結果を公表した。また、さらに有効な対策を講ずるため、基礎的な疫学調査が引き続き必要であるとした。感染流行地域ではヒト-ヒト感染の事例があるものの、継続的なヒト-ヒト感染による感染拡大は認められておらず、感染流行地からの旅行者が帰国後に感染が判明する事例があるものの、世界的な流行の兆候は認められていない。
79	ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 19(2013)12	インドにおけるキャサヌル森林病(KFD)の報告。2012年11月、カルナータカ州の国立公園内でサル12匹の死亡が報告され、死亡したサルを処分した職員6例がKFDに特徴的な臨床徴候を示して入院した。検査の結果、ヒト6例中4例、サル7頭中3頭がKFD陽性であった。また、隣接するケーララ州における感染疑い例1例、並びにタミル・ナドゥ州のサル2頭中1頭でもKFD陽性が確認され、既知の流行地域以外の地域でもKFDが発生していることが裏付けられた。
80	ウイルス感染	ProMED-mail 20130514.1712790	インドにおけるキャサヌル森林病(KFD)の報告。ケーララ州Wayanad地区においてKFD感染1例が確認された。患者は18歳であり、既に危篤状態を脱している。衛生当局の担当者によると、隣接するカルナータカ州ではKFD感染は過去にも認められていたが、ケーララ州でKFD感染が確認されたのはこれがはじめてである。
81	ウイルス感染	ProMED-mail 20130624.1789227	ベトナム及びマラウイの中枢神経系感染症患者から検出された新種のcyclovirusの報告。ベトナムにおいて、病原因子不明の急性中枢神経系感染症患者2例の脳脊髄液から新種のcyclovirusが検出され、cyclovirus-Vietnam(CyC-VN)と命名された。CyC-VNは、原因不明の同感染症のベトナム人患者の脳脊髄液標本の4%(642検体中26件)から検出され、非感染性の神経障害患者の脳脊髄液標本(122検体)からは検出されなかった。また、マラウイでは、2010年から2011年の間に原因不明の対麻痺と診断された患者12例から血清及び脳脊髄液のサンプルを採取し解析した結果、新種のcyclovirusが検出された。このウイルスは、58例の患者から採取された血清標本54検体及び脳脊髄液標本40検体のうち、それぞれ15%及び10%から検出された。cyclovirusの病原性や疫学的特徴を明らかにするためにはさらに研究が必要である。
82	ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 19(2013)1487-1489	マラウイの対麻痺患者から検出された新種のcyclovirusの報告。マラウイにおいて、2010年から2011年の間に原因不明の対麻痺と診断された患者12例から血清及び脳脊髄液のサンプルを採取し解析した結果、新種のcyclovirusが検出された。このウイルスは、58例の患者から採取された血清標本54検体及び脳脊髄液標本40検体のうち、それぞれ15%及び10%から検出された。cyclovirusの病原性や疫学的特徴を明らかにするためにはさらに研究が必要である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
83	ウイルス感染	mBio. 4(2013)1-10	ベトナムの急性中枢神経系感染症患者から検出された新種のcyclovirusの報告。ベトナムにおいて、病原因子不明の急性中枢神経系感染症を生じた患者2例の脳脊髄液から新種のcyclovirusが検出され、cyclovirus-Vietnam (CyC-VN)と命名された。CyC-VNは、原因不明の同感染症を生じたベトナム人患者の脳脊髄液標本の4%(642検体中26件)から検出され、非感染性の神経障害患者の脳脊髄液標本(122検体)からは検出されなかった。患者の暮らす地域のブタ及び家禽の糞便調査の結果から、約半数がCyC-VNを保有していることが確認され、これらの動物が感染源であると示唆された。
84	ウイルス感染	ProMED-mail 20130702.1803495	ベトナムの急性中枢神経系感染症患者から検出された新種のcyclovirusの報告。ベトナムにおいて、病原因子不明の急性中枢神経系感染症を生じた患者2例の脳脊髄液から新種のcyclovirusが検出され、cyclovirus-Vietnam (CyC-VN)と命名された。CyC-VNは、原因不明の同感染症を生じたベトナム人患者の脳脊髄液標本の4%(642検体中26件)から検出され、非感染性の神経障害患者の脳脊髄液標本(122検体)からは検出されなかった。患者の暮らす地域のブタ及び家禽の糞便調査の結果から、約半数がCyC-VNを保有していることが確認され、これらの動物が感染源であると示唆された。
85	ウイルス感染	ProMED-mail 20130416.1650747	オーストラリアにおけるバーマフォレストウイルス(BFV)感染の報告。2013年1月以降、クイーンズランド州でBFV感染の報告が増加している。2012年全体のBFV感染者数は94例であったが、2013年1月から3月までに既に41例のBFV感染が報告された。市議会は、蚊媒介性疾患であるBFV感染の拡大を防ぐため、庭を清掃し、水たまりをなくすよう市民に対し警告した。BFV感染は夏期の多雨とともに増加する。ブリスベン地域では2013年1月以降、平年の約2倍の降雨量が記録された。
86	ウイルス感染	ProMED-mail 20130911.1937867	バングラデシュにおけるサル泡沫状ウイルス(SFV)感染の報告。ワシントン大学をはじめとする研究チームは、バングラデシュにおいて複数のヒトSFV感染例を確認した。また、調査の結果、ほとんどの感染例はサルの咬傷を受けたことが判明した。本ウイルスの病原性については不明である。
87	ウイルス感染	ProMED-mail 20130913.1940383	アゼルバイジャンにおけるウシのブニヤウイルス感染に関する報告。ウシで感染が拡大しているブニヤウイルスが変異してヒトに感染する可能性がある」と農業専門家は述べているが、獣医当局はブニヤウイルスが動物からヒトへ感染する可能性はないとしている。一方、獣医当局はウシ176,000頭がブニヤウイルスに感染しており、住民に対し地元産の牛肉の使用を控えるよう推奨している。
88	ウイルス感染	Transfusion. 53(2013)1088-1094	ドイツにおけるサイトメガロウイルス(CMV)初感染のウインドウ期中の供血と輸血感染リスクに関する報告。直前の抗体検査時は陰性であり、35日以内に、スクリーニング検査でCMV抗体陽性となった供血者93例を対象に詳細調査を行った。その結果、多くの供血者はスクリーニング検査の偽陽性結果によるものであり、セロコンバージョンが確認されたのは12例であった。また、直前の抗体検査陰性時の検体に比べて、初回抗体陽性時の検体中のCMV DNAの保有率及び濃度は高いことが明らかとなった。輸血感染CMVを防ぐためには、初回抗体陽性供血由来の血液製剤を使用しないことが特に有効であると考えられる。
89	ウイルス感染	Transfusion. 53(2013)1421-1428	新興感染症の輸血感染リスクを示すためのモデルの報告。欧州疾病予防管理センターは、新興感染症のアウトブレイク時に輸血感染のリスクを迅速に把握するため、European Up-Front Risk Assessment Tool(EUFRAT)を開発した。EUFRATは、受血者に対するリスクの定量化及び安全性確保措置の効果の検証にも利用でき、公衆衛生上の施策の決定の助けとなる。
90	ウイルス感染	第60回日本ウイルス学会学術集会 2012年11月13-15日、P2-109	ザンビア共和国における野生動物のオルソポックスウイルス(OPXV)感染の報告。野生サルの脾臓189検体及びげっ歯動物の脾臓304検体についてRT-PCR法によりOPXVゲノムの検出を試みた結果、いずれの検体からもOPXVゲノムは検出されなかった。また、野生サル189頭の血清を用いて抗ワクシニアウイルス抗体の検出を試みた結果、8検体が陽性であった。
91	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	<a href="http://ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Retraits-de-lots-et-de-produits/Medicaments-Derives-du-Sang-LFB-Biomedicaments-Rappel-de-lots4">http://ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Retraits-de-lots-et-de-produits/Medicaments-Derives-du-Sang-LFB-Biomedicaments-Rappel-de-lots4</a>	フランスにおける弧発性クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)に起因するアルブミン製剤回収の報告。LFB Biomedicament社は、仏医薬品・保健製品安全庁の要請で、弧発性CJDを発症した可能性のある患者の血漿から製造された血液由来製剤の特定ロットの回収を実施した。この回収は予防的措置であり、本件による弧発性CJD感染の報告はない。当該製剤の製造工程においては、プリオン除去に効果のある処理が含まれている。血液製剤による弧発性CJDの発症は理論上のリスクではあるが、証明され、特定されたリスクではないとされている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
92	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20130513.1746730	各国におけるウシ海綿状脳症(BSE)感染リスクに関する報告。国際獣疫事務局は2013年の総会において、イスラエル、イタリア、日本、オランダ、スロベニア及び米国は「無視できるBSE感染リスク」であると認定した。
93	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS One. 24(2013)e69632	異常プリオン蛋白(PrP)の高感度・高特異性の増幅検査に関する報告。プラスミノーゼンをコーティングした磁気ナノビーズを用いたPrPの分離、蛋白質ミスフォールディング循環増幅法による増幅及びウエスタンブロット法による検出の3段階から成る検査法を開発した。この検査法により、無症候性キャリアにおいてPrPを検出するのに必要な感度での検査が可能となった。この検査法は、大規模スクリーニングで陽性反応を示した患者の血液中におけるPrPの存在を確認する検査として有望であると考えられる。
94	炭疽	ProMED-mail 20130606.1758983	米国におけるウシの炭疽の報告。ノースダコタ州の農場においてウシ1頭の炭疽感染が確認された。農務当局の担当者は農場主に対し、炭疽感染からウシを守るための措置を講ずることを求めた。
95	炭疽	ProMED-mail 20130607.1761169	米国におけるウシの炭疽の報告。2013年6月7日、ミネソタ州の獣医当局は、州内の農場で4歳のウシが炭疽により死亡したことを公表した。このウシは6月3日に農場で死亡しているところを発見され、6月6日に炭疽感染が確定した。ミネソタ州で炭疽が確認されたのは、2008年以降ではじめてである。
96	炭疽	ProMED-mail 20130508.1700012	モロッコにおける炭疽の報告。2013年5月4日、マラケシュの34歳の男性1例が炭疽により死亡した。症例は発症前、農場で死亡したウシと接触していた。モロッコでは2012年に12例が炭疽により死亡した。
97	炭疽	ProMED-mail 20130517.1720541	バングラデシュにおける炭疽の報告。2013年5月17日、タンガイル県Upazilの保健当局の担当者は、14例の炭疽感染を確認したことを公表した。感染例は、炭疽に感染したウシの解体や処理に従事した者又はその肉を喫食した者であった。
98	炭疽	ProMED-mail 20130719.1834906	米国におけるウシの炭疽の報告。2013年7月、サウスダコタ州の獣医当局の担当者は、州内の農場でウシ1頭が炭疽により死亡したことを公表した。死亡したウシは4カ月齢であった。
99	炭疽	ProMED-mail 20130807.1869434	ロシアにおける炭疽の報告。スタヴロポリ地方において2例の炭疽感染が確認された。ロシアの獣医当局によると、感染源は病気のヒツジの肉を喫食したことによると考えられている。また、バシキール地方において住民11例が炭疽感染の疑いで入院しており、うち4例の診断が確定した。当局によると、感染源は食肉解体された動物の汚染された肉であると考えられている。
100	結核	ProMED-mail 20130304.1570707	ネパールにおける薬剤耐性結核の報告。2012年11月下旬、米国テキサス州の国境近くで拘束された男性から広範囲薬剤耐性結核菌が検出された。男性は、ネパールから南アジア、ブラジル、メキシコから米国へ、3ヶ月間にわたって13カ国を通過した。
101	結核	ProMED-mail 20130326.1622342	米国におけるウシ結核の報告。2013年3月22日、ミンガン州農務当局は、州内の農場のウシ1頭においてウシ結核を確認したことを公表した。検出された菌株はミンガン州のウシ及びシカに固有の株であった。
102	結核	ProMED-mail 20130421.1661848	中国における多剤耐性結核(MDR-TB)の報告。公衆衛生の専門家によると、中国本土では毎年12万人のMRD-TB新規症例が発生している。これは全世界で1年間に発生する新規症例の約25%を占めている。
103	結核	ProMED-mail 20130502.1686971	ベルギーにおけるウシ結核の報告。2013年4月30日、オースト＝フランデン州の農場においてウシ結核が確認された。2013年のベルギー国内のウシ結核の発生は計6件となった。
104	結核	ProMED-mail 20130510.1703033	インドにおける多剤耐性結核(MDR-TB)の報告。Chandigarhで実施された調査によると、結核患者のうち17%がMDR-TBであった。新規に結核と診断された患者のうち9%がMDR-TBであり、これは世界保健機関の公表する数値(3~5%)よりも高い。また、過去に治療を受けたことのある患者では27%がMDR-TBであり、これは過去の治療で服薬を中止したことが原因であると考えられた。
105	結核	ProMED-mail 20130519.1723864	ドイツにおけるウシ結核の報告。ニーダーザクセン州当局によると、域内で屠殺された乳牛1頭においてウシ結核が確認された。検査の結果、同じ群れの大部分のウシが結核に感染していることが判明し、100頭以上のウシが処分された。感染源は不明であるが、野生動物ではなく買入れた動物が原因である可能性が高い。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
106	結核	ProMED-mail 20130616.1775410	米国におけるウシ結核の報告。ノースダコタ州の獣医当局は、州内の農場のウシ1頭において結核を確認したことを公表した。ノースダコタ州でウシ結核が確認されたのは14年ぶりとなる。このウシは、テキサス州から、サウスダコタ州の仲介業者を通じて、ノースダコタ州へ移入したウシであった。
107	結核	ProMED-mail 20130622.1787066	英国におけるウシ結核の報告。West Berkshireの共有地で放牧されているウシにおいて結核が確認された。感染拡大を防ぐため、共有地内外のウシの移動が制限された。
108	結核	ProMED-mail 20130802.1861207	フランスにおけるウシ結核の報告。アルデンヌ県の獣医当局によると、域内の農場においてウシ結核の集団感染が発生した。この集団感染は、フランス北部からアルデンヌ県へ移動したウシ1頭と疫学的関連があると考えられた。
109	結核	ProMED-mail 20130809.1871322	英国における結核の報告。53歳の食肉処理業に従事する男性がウシ結核に感染し、死亡した。この患者は感染したウシの血液や尿などのエアロゾルを介して感染した可能性が指摘されている。結核に感染したウシが屠殺されているにもかかわらず、屠体から発生するエアロゾルを阻止するための処置がなされていないことが懸念される。
110	結核	The Lancet. 381(2013)2138-2140	パキスタンにおける感染症増加に関する総説。パキスタンでは、衛生管理システムの脆弱性や効果的でない規制が原因となり、結核、C型肝炎、マラリア、HIV/AIDS等の感染率が增大している。中でも、結核は国内に620,000例の感染者がおり、新たな感染は毎年410,000例が発生し、毎年59,000例が死亡している。薬剤耐性結核は毎年9,000例が発生していると推定されるが、診断・治療を受けているのは1,000例に満たないという統計もある。
111	結核	Trop Med Int Health. 18(2013)636-645	インドの結核患者における糖尿病罹患率に関する報告。結核患者8,269例を対象に調査を行ったところ、評価対象8,109例のうち1,084例(13%)が糖尿病と診断された。糖尿病罹患率は、北部(10%)より南部(20%)で高かった。
112	サルモネラ症	CDC MMWR 62(2013)525	米国におけるサルモネラ症の報告。2013年1月25日、ミネソタ州保健当局は、サルモネラ症の患者2例が確認されたことを明らかにした。これまでの調査によると、今回の感染はヘビの飼料用の冷凍マウスとの接触と関連している。また、2例が入院している病院に勤務している外科専門医が3例目の患者として報告されており、ヒト-ヒト接触による職業感染の可能性があると報告された。
113	サルモネラ症	ProMED-mail 20130627.1795809	米国におけるサルモネラ症の報告。2013年1月25日、ミネソタ州保健当局は、サルモネラ症の患者2例が確認されたことを明らかにした。これまでの調査によると、今回の感染はヘビの飼料用の冷凍マウスとの接触と関連している。また、2例が入院している病院に勤務している外科専門医が3例目の患者として報告されており、ヒト-ヒト接触による職業感染の可能性があると報告された。
114	ペスト	ProMED-mail 20130711.1819290	ロシアにおけるペストの報告。2013年7月10日、ロシアの日刊紙はダゲスタン共和国Kulinsky地区においてペストの集団感染が発生したことを伝えた。感染拡大を防ぐため、発生地域では予防接種が実施され、移動制限措置が講じられた。
115	野兎病	ProMED-mail 20130226.1560910	米国における野兎病感染の報告。ノースカロライナ州保健当局は野兎病陽性の患者1例を確認したことを公表し、地元新聞紙は2例目の患者が確認されたことを報告した。2例ともすでに回復している。ノースカロライナ州では、1999年以降、17例が野兎病に感染している。全米では毎年約200例の感染者が報告されている。
116	野兎病	ProMED-mail 20130628.1797147	米国における野兎病感染の報告。2013年6月27日、ニューメキシコ州保健当局は、州内で野兎病の感染が増加していることを公表した。野兎病の感染者は、4月中旬以降、4例のヒト、6匹のイヌ又はネコで確認されている。保健当局は、病気または死亡したげっ歯類に触れないこと、ペットに適切なマダニ及びノミ駆除製品を装着することなどを推奨した。
117	野兎病	ProMED-mail 20130702.1802498	米国における野兎病に関する報告。2013年6月19日、アラスカ州野生動物当局は、野兎病を有するおそれのあるカンジキウサギに注意するよう住民に対し警告した。フェアバンクス地域のカンジキウサギが野兎病により死亡したことが検査で確認されており、その他、病気の野ウサギが複数報告されている。死んだ野ウサギに触れる場合には適切な措置を講ずることや、ビーバーやジャコウネズミがいる地域においては非処理の水を飲まないことなどが推奨された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
118	野兎病	ProMED-mail 20130818.1886594	米国における野兎病に関する報告。2013年8月15日、コロラド州プエブロ郡の保健当局は、野兎病陽性のウサギをプエブロ西部で確認したことを公表した。このウサギは捕獲前、小児1例と接触していたが、現在、小児に野兎病の症状は認められていない。これは、2013年にプエブロ郡で確認された野兎病の1例目の報告である。
119	クロストリジウム感染	ProMED-mail 20130719.1834953	米国におけるウシのクロストリジウム感染に関する報告。アーカンソー州では、クロストリジウム感染によるウシの死亡が続いている。州の獣医当局の担当者によると、乾燥した気候と短い牧草のため、ウシは地面に近づいて草を食べねばならず、クロストリジウムを含むおそれのある土壌微粒子を摂取する可能性が高くなると考えられている。しかし幸いなことに、この感染症は比較的安価なワクチンにより予防することが可能である。
120	ポツリヌス中毒	ProMED-mail 2013.0627.1794268	オーストラリアにおけるウシのポツリヌス症に関する報道。2013年6月、北部準州の農場において300頭以上のウシが死亡し、ポツリヌス症の感染が原因として考えられている。当該農場では毎年、ウシへのワクチン接種を行っていた。
121	ジフテリア	BMC Public Health. 13(2013)317	インドにおけるジフテリアの報告。2011年8月にマハーラーシュトラ州Dhule地区でジフテリアの集団感染が発生した。感染確定例は計11例であり、若年層(10-15歳)が7例と最も多く、性別に偏りはなかった。臨床症状は、主に咳、発熱、咽頭充血等であった。また、細菌培養検査で陽性であった3例全例で薬剤耐性が確認された。症例のうち1例は、抗ジフテリア血清が投与されたが効果なく死亡した。
122	梅毒、細菌感染、HIV感染	<a href="http://www.hpa.org.uk/hpr/archives/2013/hpr1313.pdf">http://www.hpa.org.uk/hpr/archives/2013/hpr1313.pdf</a>	英国における梅毒、細菌性赤痢及びHIV感染に関する報告。2011年、性的指向性データが入手可能な梅毒症例2,820例のうち、67%がMSM(男性と性交渉を持つ男性)であった。また、英国内の性病クリニックで感染性梅毒と診断された2,915例のうち90%が男性であった。白人のMSMである患者の増加が顕著であり、そのうちの多数がHIVとの重感染であった。細菌性赤痢症例のほとんどは海外への渡航に関連していたが、英国国内での性感染に関連した症例(主にMSM)も認められた。
123	梅毒	ProMED-mail 20130522.1730900	米国における梅毒に関する報告。カリフォルニア州Butte郡の公衆衛生当局は、2013年第1四半期に報告された梅毒症例4例について報告した。この郡における梅毒の年間平均報告数は約4例であり、第1四半期で4例が確認されたことはこの郡における梅毒患者の増加を示している。カリフォルニア州公衆衛生当局によると、梅毒はカリフォルニア全域、特にサンフランシスコ、ロサンゼルス等の大都市で増加している。
124	梅毒	ProMED-mail 20130608.1761566	カナダにおける梅毒に関する報告。ブリティッシュコロンビア州における梅毒患者が増加しており、過去30年間で最悪のレベルである。2012年には州内で371例の梅毒患者が確認され、そのうち80%がバンクーバー市からの報告であった。北米の大都市全体での梅毒の増加の傾向と一致した現象と考えられている。
125	ボレリア感染	平成25年9月3日付け 健感発0903第1号厚生 労働省健康局結核感 染症課長通知	国内におけるボレリア感染の報告及び病原体診断検査に関する協力依頼。2013年9月3日、厚生労働省健康局は、ボレリアによる回帰熱(四類感染症)の症例を国内で2例確認したことを報告した。ライム病の診断で行われる血清中の抗ボレリア抗体の検出検査のみでは、ライム病と回帰熱を鑑別することが困難であるため、2症例とも当初はライム病と診断されていた。このため、回帰熱又はライム病を疑う症例については、回帰熱・ライム病両方の検査を実施するよう協力依頼がなされた。なお、検査については、国立感染症研究所細菌第一部において実施することが可能である。
126	ライム病	ProMED-mail 20130413.1642921	米国におけるライム病に関する報告。北西部ではライム病症例が増加している。オレゴン州におけるライム病の報告者数は、2006年には20例であったが、2012年は48例に増加した。専門家は、最近のライム病増加は感染症を媒介するダニの増加によるものと考えている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
127	ヒトのエールリツヒア症	ProMED-mail 20130405.1624168	輸血によるエールリツヒア症伝播の可能性に関する報告。2011年夏、ジョージア州の9歳の小児がエールリツヒア症と診断された。患児は急性リンパ性白血病のため屋外で活動することはなく、家族によればダニから感染する可能性は思いつかないとのことであった。発症の前に複数回の輸血を受けていたことから、輸血による感染の可能性があると調査が行われた結果、輸血製剤のドナーのうちの1人が <i>Ehrlichia</i> 種に対する抗体を保有していた。当該ドナー由来の血液製剤を投与された8名の患者のうち、3名はエールリツヒア症とは無関係な原因で死亡しており、残る5名はエールリツヒア症の検査は陰性であった。本事例に関連する血液製剤はすべて白血球除去及び放射線照射の処理を受けており、今回の報告は、こうした血液製剤がリケッチア症の感染源となる可能性を示した初めての報告である。
128	マラリア	Clin Microbiol. 51(2013)1439-1444	インドにおける無症候性マラリアに関する報告。西ベンガル州プルリア県の住人1,040人を対象にスクリーニング検査を実施した結果、8.4%が熱帯マラリア原虫に感染していたにもかかわらず臨床症状がみられなかった。陽性者にはアルテシニンをベースとした治療を行ったところ、有効率は97%であった。マラリア原虫の遺伝子を解析したところ、スルフアドキシン-ピリメタミン耐性の増強を示唆する変異が認められた。
129	リーシュマニア症	Apher Sci. Aug. 17, 2013	ブラジルにおけるリーシュマニア症 (VL) の無症候性感染の報告。VL既往歴のない計430例の供血者の血清検体について免疫蛍光抗体検査を実施したところ、67例 (15.6%) にリーシュマニア抗体が検出された。感染と関連する因子として、「供血者の出身地」、「家の周囲に公園や広場がある」、「近所に皮膚疾患や四肢まひを呈するイヌがいる」及び「VL患者との接触」が挙げられた。輸血の更なる安全性のため、リーシュマニア抗体のルーチン検査を行うべきと考えられた。
130	リーシュマニア症	Eurosurveillance. 25(2013)20539	欧州におけるリーシュマニア症に関する報告。これまで熱帯地域の疾患と認識されていたリーシュマニア症は、既に南欧で風土病となっている。2003年から2008年までに、欧州9カ国において毎年410から620例の内臓リーシュマニア症 (VL) が発生していると推定された。また、人獣共通感染症である皮膚リーシュマニア症はVL流行地域で発生するが、 <i>Leishmania infantum</i> による皮膚症状は軽症であるため過小評価される傾向にある。既に流行している地域ではさらなる拡大の可能性もあるため、サーベイランスを慎重に行い、国内外における届出システムを整備する必要がある。
131	細菌感染	ProMED-mail 20130801.1858689	中国における薬剤耐性菌の報告。香港大学の調査によると、Sheng Shui地区の屠殺場のブタからバンコマイシン耐性の <i>Enterococcus faecium</i> が検出された。屠殺場には中国本土及び現地の農場から家畜が集まるため、感染したブタの由来を特定することはできなかった。この耐性菌は、香港及びアジア地域の家畜において今まで確認されたことがない。
132	真菌感染	ProMED-mail 20130620.1782651	オーストラリアで発見された新規アスペルギルス属による感染症の報告。シドニー大学の研究グループは、ヒト、ネコ及びイヌに致死的な感染症を引き越すおそれのある新規の真菌 <i>Aspergillus felis</i> を発見した。ネコにおいては健康な個体での感染も確認されたが、ヒトにおいて感染が確認された2例はいずれも免疫が抑制された状態であった。うち1例はリウマチ関節炎に対して免疫抑制療法を受けていた56歳男性であり、浸潤性アスペルギルス症を呈して、感染は18カ月間もの長期にわたった。ヒトとネコの間で感染が伝播した事例は確認されていない。ネコにおける生存率は15%程度である。これまでのところ、当該感染はヒトにおいては致死性である。
133	アメリカ・トリパノソーマ症	Transfusion. 53(2013)1706-1713	カナダ献血サービスにおける <i>Trypanosoma cruzi</i> 選択的検査導入に関する報告。2009年2月以降、すべての供血者の中南米滞り歴や自身の出身地及び母親・母方の祖母の出身地について問診し、リスク供血者からは血小板製剤の製造を中止している。今回、2010年5月以降のリスク供血者について <i>T. cruzi</i> 抗体検査を行い、陽性の供血者に関して遡及調査を実施した。その結果、供血者421,979人のうちリスク供血者は7,255人であり、そのうち13人が <i>T. cruzi</i> 抗体陽性であった。また、13人のうち11人は中南米出身 (パラグアイ9人、アルゼンチン2人) であった。遡及調査により以前の供血148件 (176製剤が輸血された) が評価され、28%の受血者が検査を受けたが <i>T. cruzi</i> 抗体陽性例は確認されなかった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
134	アメリカ・トリパノソーマ症	<a href="http://wwwnc.cdc.gov/eid/article/19/7/12-1576.htm">http://wwwnc.cdc.gov/eid/article/19/7/12-1576.htm</a>	ベネズエラにおけるシャーガス病の集団感染の報告。2009年、バルガス州の小学校で生徒71例及び成人14例の集団感染が発生し、2010年、カラカスの食堂で33例の集団感染が発生した。2件の集団感染とも経口感染によるものと考えられている。今回、マイクロサテライト・タイピングによる解析を実施したところ、両事例で分離された <i>Trypanosoma cruzi</i> のヒト分離株の遺伝子配列は、 <i>T. cruzi</i> 非経口感染株の遺伝子配列とは明確に異なっていることが明らかとなった。また、2009年にバルガス州で発生した集団感染の原因は、同地域で汚染された食品であることが示唆された。
135	アメーバ症	Parasitol Int. 62(2013)230-235	ネパールにおけるマカクザルの寄生性アメーバ <i>Entamoeba nuttalli</i> 感染に関する報告。カトマンズ・ヴァレーの4地点で採取されたマカクザルの糞便試料112検体について検討した結果、各寄生性アメーバの感染率は、それぞれ <i>E. nuttalli</i> 51%、 <i>E. disper</i> 12%、 <i>E. histolytica</i> 0% 及び <i>E. moshkovskii</i> 0% であった。また、計14の <i>E. nuttalli</i> 分離株が得られた。特定のタンパク質におけるセリン含有量は検体が採取された地点ごとに異なっており、これは分離株の地理的なタイピングに有用であるかもしれない。